

まちの魅力づくり対策特別委員会
第二回調査結果報告書

平成 31 年 3 月 26 日
福 生 市 議 会

目 次

1	まちの魅力づくり対策特別委員会の調査目的	1
2	調査目的の選定経緯	1
3	調査結果報告（平成31年3月定例会）の対象項目	1
4	審査の経過と内容	1
5	各委員の意見	4
6	提言（調査結果）	1 3
	まちの魅力づくり対策特別委員会委員名簿	1 6

1 まちの魅力づくり対策特別委員会の調査目的

新たな観光資源の創出について調査研究を行うこと。

2 調査目的の選定経緯

日本全体で人口減少が進む中、「地方創生」「人口減少」というキーワードをもとに、自治体間の競争が激しくなり、それぞれの自治体が知恵を絞ってさまざまな事業を展開している。

我が市においても「子育てするならふっさ」のかけ声のもと、子育て施策、教育施策をはじめ、さまざまな施策の展開を行っているが、米軍横田基地があることで、国際色豊かな街並みがあること、また、二つの酒蔵があり、和の文化も多く存在することなど、数多くの特徴を持った自治体であると言える。

このようなことをはじめ、ほかにも数多く存在するまちの魅力を再発見し、発信していくこと、また、そのための措置を講じていくことが、これからの福生市に必要であると考えことから、本委員会では、新たな観光資源の創出について調査研究を行い、新たな観光資源の創出に関する提言を行うこととした。

3 調査結果報告（平成31年3月定例会）の対象項目

「和の文化について」

「洋の文化について」

「多摩川流域（沿い）の魅力づくりについて」

「情報発信及び環境整備について」

4 審査の経過と内容

（審査経過）

回数	開催日	審査内容
第1回	平成29年 5月11日	1. 正副委員長の互選について 委員長 末次和夫 副委員長 池田公三
第2回	6月16日	1. 福生市の観光行政の現状について 理事者（シティセールス推進課及び企画調整課）より観光行政及び交流人口の現状についての説明があった。 2. 今後の進め方について 各委員の意見を聞き、今後、有識者をお呼びして説明を受ける旨の決定をした。
第3回	9月8日	1. 参考人の委員会出席について 参考人として有識者の出席を求めることを決定した。 《参考人》 株式会社リクルートライフスタイル 川波佑吉 氏 森ビル株式会社 矢部俊男 氏、松本瑠里子 氏

第4回	9月25日	<p>1. 観光行政等について</p> <p>《参考人意見聴取》</p> <p>※内容は第一回調査結果報告書に掲載しています。</p> <p>参考人：株式会社リクルートライフスタイル 川波佑吉 氏 テーマ：「観光マーケットの現状と福生市に求められる観光推進」</p> <p>参考人：森ビル株式会社 矢部俊男 氏、松本瑠里子 氏 テーマ：「福生市の魅力発信に向けた取り組み及びご提案」</p> <p>《その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参考人意見後の各委員の感想 ・今後の進め方について <p>10月17日に本委員会を開催することを決定。</p>
第5回	10月17日	<p>1. 今後の検討事項について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各委員の意見 ・今後の進め方について <p>委員会資料（今後の進め方）のとおり進めていくことを決定。 ワークショップ形式での協議を実施することを決定。</p>
第6回	12月15日	<p>1. 今後の検討事項及び新たな観光資源の創出について</p> <p>ワークショップ形式で検討事項を出し合い、今後検討していく検討事項4グループを選択した。また、選択した検討事項の現状把握及び新たな観光資源の創出について協議した。</p> <p>ファシリテーター：末次委員長 使用機材：ホワイトボード3台、付箋（75mm×127mm）等</p> <p>《選択した検討事項》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 和の文化について 2 洋の文化について 3 富士見通りについて 4 多摩川流域（沿い）の魅力づくりについて
第7回	平成30年 3月16日	<p>1. 新たな観光資源の創出について</p> <p>検討事項の「富士見通りについて」は、いつまでに提言をすれば地区計画に反映できるかについて理事者（まちづくり計画課）から説明があり、「富士見通りについて」のみ先行して、平成30年9月定例会に調査結果報告を行うことに決定した。</p> <p>また、富士見通りまちづくり協議会が市長に提出した『富士見通り地区のまちづくりに関する要望』について理事者（まちづくり計画課）から説明があった後、前回のワークショップ形式の協議で絞り込まれた4つの検討事項について協議した。</p>

行政 視察	5月10日 ～11日	滋賀県米原市 自転車による観光対策及び道の駅等の観光資源・拠点を活用した 回遊ルートについて 滋賀県守山市 自転車を中心としたまちづくり及び古民家の活用について
第8回	6月15日	<u>1. まちの魅力づくり対策特別委員会第一回調査結果報告書（案） について</u> 「富士見通りについて」の提言以外の内容については、委員会資料として示した案のとおり決定した。また、提言の内容については、これまで本委員会で協議されてきた各委員の意見を基に案を示し、提言の修正及び追加を行った。 <u>2. 新たな観光資源の創出について</u> 「和の文化について」、「洋の文化について」、「多摩川流域（沿い）の魅力づくりについて」の3つの検討事項に加え、「広域連携、動画配信及びWi-Fi環境等について」について協議した。
第9回	9月19日	<u>1. まちの魅力づくり対策特別委員会第一回調査結果報告書（案） について</u> 「富士見通りについて」の提言内容について最終確認を行い、本委員会として第一回の調査結果報告書（案）をまとめた。 <u>2. 新たな観光資源の創出について</u> 「和の文化について」、「洋の文化について」、「多摩川流域（沿い）の魅力づくりについて」等の提言内容について協議した。
	9月28日	【第一回調査結果報告】 平成30年9月定例会において、まちの魅力づくり対策特別委員会第一回調査結果報告書を議決（可決）し、市長へ提出した。
第10回	12月14日	<u>1. まちの魅力づくり対策特別委員会第二回調査結果報告書（案） について</u> 第二回の調査結果報告書（案）の構成及び内容について確認し、提言内容の修正を行った。
第11回	平成31年 3月15日	<u>1. まちの魅力づくり対策特別委員会第二回調査結果報告書（案） について</u> 提言内容について最終確認を行い、本委員会として第二回の調査結果報告書（案）をまとめた。

5 各委員の意見

【和の文化について】

(平成 29 年 12 月 15 日)

- ・お土産品の開発（市民全体での共通理解が必要）
- ・酒蔵またはその周辺での食堂・カフェ
- ・古民家カフェ（市民参加）
- ・古民家での茶道、華道体験など

(平成 30 年 3 月 16 日)

- ・酒蔵や古民家では、面的にいろいろできればもっと面白くなる。
- ・福生市で滞在してもらえる時間を長くするには、古民家カフェ・食堂など、ゆっくりしてもらえるしつらえが大事だと思う。
- ・石川酒造と熊川分水等も点と点が結んで面になるような発信ができればよい。
- ・議会として提言するのであれば、古民家に人が集まるような古民家活用の提言ができればよい。
- ・点と点をつなげるような、ねらいを絞ったガイドツアーをはっきり組む。
- ・古民家を活用した和の文化を広げるような提言がよい。
- ・酒蔵や神社仏閣につながる拠点としての古民家の有効活用。
- ・日本文化や伝統などを総合的に体験できる拠点（古民家や福庵など）の創出及びそのツアー。
- ・現在、古民家（旧ヤマジュウ田村家住宅）の説明はパンフレットで対応しているとのことだが、説明員がいればもっと理解が深まるのでは。
- ・宿橋通りから古民家、田村酒造場につながる通りがポイントとなるのでは。
- ・市内の酒蔵を地域資源ととらえれば、その酒粕を使用した甘酒を古民家で振る舞ったりすると一つの魅力となる。
- ・酒粕を利用した福生ならではの和菓子の開発など、古民家等とコラボレーションして活用できれば魅力もアップするのでは。
- ・福生市にはたくさんの蔵が残っているとの報告もあり、何がブームになるかはわからないので、福生市にもともとある地域資源についても発信できれば。
- ・以前、参考人の意見でも「食」がとても大事との話があったが、酒粕や日本酒などの地域資源を活用し、統一した食材を使ったお土産や食べ物が開発されるよう提案するのがよいと考える。
- ・観光資源を点で終わらせるのではなく、面的にとらえてつなげる仕掛けが必要。
- ・古民家については、休み処（カフェ・食堂など）としての活用や、和の文化を体験できる場としての活用など、回遊の拠点として有効活用することが必要。
- ・和の文化については、古民家を中心に協議していく。

(平成 30 年 6 月 15 日)

・旧ヤマジュウの関係で、周りにある昔の郵便局のところ等を借りるなり、買うなり、そんなことができないと、カフェ等が実質的にできないのではないかと考えているが、周りのところが全部大きく変わることができれば可能性がすごく大になると思う。

⇒長沢公園と古民家の中の駐車場の件については、定期的に所有者を代理する不動産会社の方と接触を持っており、今年度も一度、その御意向をお伺いに行っている。現時点でも状態は変わらず、所有者の方が交換あるいは売却に応じてくれるということは今の時点ではない。

⇒旧郵便局については、現在、教会で使用しており、3年間賃貸借契約が延長されている。借り受けについて持ち主の方に今後交渉していくということで進めようと思っている。また、旧ヤマジュウと旧郵便局で用途地域が異なり、旧ヤマジュウは第1種低層で基本的にはいろいろなお店ができない地域になっている。旧郵便局は少し緩やかになっており、借り受けとかができれば、旧郵便局では売店等が可能になってくる。

⇒長沢公園のほうの用地買収のところ、公園の用地になり、公園用地内の文化財になると、少し要件が変わってくる。ただ、現状では店舗や、増築した形での設備投資等というのはできない状況になっている。

・守山市のうの家は、中山道という大きな街道の宿場町としての雰囲気が残っていて、うの家で食事をとらなくても、ほかに寄れるところがあった。旧ヤマジュウのある宿橋通りでは、まだまだ仕掛けが足りず、市外から来た人が長く滞在できる環境にない。和の雰囲気という中で長徳寺や東海居も含めて、エリアで何かできると、そこに来た人の滞在時間を延ばす仕掛けができるのかなと思う。そういうふうな環境ができれば、旧ヤマジュウは文化的なところを見て、一服は田村酒造で、もう少し和の雰囲気をゆっくり味わいたい人は、玉川上水沿いから東海居のほうまで行って何か体験ができるとか、そういうストーリーができると、また違うのかなというふうに感じた。

・古民家利用として考えたときに、将棋とかができる場所としてもよいのでは。
・カフェ的な簡単な、余りいじらなくても座敷でコーヒーを飲めたりとか、テーブルを置いたりして、できる範囲でやるということも必要かなと思っている。
・古民家を活用したカフェは、ちょうど一服するところとしていいのではないかな。
また、市民がそういう観光に参加できる、観光に来た客と一緒に何かできるところがあればいい。

・カフェも市民が参加した日が変わりカフェみたいなものだと、運営に市民も参加でき、カフェもできたりするのでいいのではないかなというふうに思う。

・福生市は繭づくりが盛んだったと思う。体験型の観光はリピーターが多いので、地域の蔵に残っているような繭の道具とかがあれば、何か体験型の仕掛けもできるのかなと思う。

(平成 30 年 9 月 19 日)

- ・和の文化についての提言で、前から点ではなくて線、そして面にということ saying であって、その辺のところはタイトルのところに入っているのですが、例えば蔵だったり、神社だったり、そういったところの動線上が無電柱化されているといいなと少し思った。やはり雰囲気とうまく見せるためにも、電線類地中化、無電柱化が進められるとまた雰囲気が変わるかと思しますので、入れられるのであればそういったことを入れてもいいかなというふうに思う。
- ・福生市には二つの酒蔵があるので、そこを中心に、そこだけ無電柱化というのは多分難しいと思う。提言なので、そこに至る動線をうまく電線類地中化できれば、おもしろい仕掛けができるのではないかなというふうに思う。
- ・石川酒造であれば石川酒蔵から睦橋通りに入る間であるとか、田村酒造場で言えば永田橋あたりから長徳寺の先までとか、そういった線的にできるところをすることはある程度可能なかなというふうに思う。

(平成 30 年 12 月 14 日)

- ・提言 1 「観光資源を点で終わらせるのではなく、面的にとらえてつなげる仕掛け」及び提言 2 「既存の観光資源の景観及び魅力を向上させる仕掛け」の内容確認を行った。

【洋の文化について】

(平成 29 年 12 月 15 日)

- ・16号周辺の空き家など空いているスペースを活用した音楽体験など
- ・飲食店での英語でコミュニケーション（ネイティブの英会話にチャレンジする場）
- ・易しい日本語でのコミュニケーション（本場の日本語にチャレンジする場）

(平成 30 年 3 月 16 日)

- ・アメリカンポップス、ジャズ、ブラックミュージックなどの音楽がもう少し身近なところで感じられるような場所（オープンスペース）があるとよい。
- ・国道16号線沿いのベースサイドストリートが一番の資源になると思う。より魅力的になるような何かができるならばよい。
- ・ブルーシールアイスクリームやビッグママなどの看板は洋の文化を感じる外観であると思う。看板は各店舗での設置となるので、市としては洋の文化を発信している建物に対し、何かグッドデザイン賞のような仕掛けを実施していけば、どんどん福生市がアメリカンな雰囲気になっていくのではないかな。
- ・国道16号線沿いの空き家にアメリカンな雰囲気のお店が入ってくれるような仕掛けが必要と思う。

- ・飲食店で外国の方たちと英語で話をすることや、英語圏の人たちは日本語で話すような、両方を楽しめる魅力を持った福生市として、環境整備ができるとよい。
- ・洋の文化については、国道16号線沿い（ベースサイドストリート）を中心として協議していく。
- ・国道16号線と富士見通りのつながりがポイントとなるので、一体として考える。

(平成30年6月15日)

- ・今16号沿いにある文化を守っていく必要があるなど思っている。来る人は変わらず来ているのですけれども、来る層が変わっているというふうな話があって、前は気合いを入れてくる人が多かった。憧れて来る人が多かったけれども、最近はぷらっと来る人が多いと、そんな話も聞いていて、ここを何とかして守って元気にしていかなければいけないというのはすごく感じている。

(平成30年9月19日)

- ・提言3「本場の英語が体験できるエリアとしての仕掛け」について、本場の英語が体験できるエリアとしての仕掛けということで、後段のほう、既存の飲食店、雑貨店等で、海外等に行く前の練習の場として洋の文化を体験できるというところで、英語及び米ドルでの買い物などというところで、実際に英語を話せるスタッフがいて、さまざま対応していただける、そういった店舗とか施設がどのぐらいあるのかというのを、一旦調べたほうがいいのかなどということもある。
- ・提言3のところについては、参考人の方から、そういうのがあったらおもしろいよね、ストーリー性があるよねというふうなことも意見があった。この辺のところは、現状は確かにはないかもしれないのですけれども、仕掛けることで新たにそこで雇用が生まれるだとか、大きくはないでしょうけれども、入れておいてもいいのかなというふうには思う。
- ・提言3のタイトルについて、我々英語を使わない人が、ここに行けば英語の体験ができるというふうに読んだが、本文を読んでも、米ドルで買い物ができるというのが、日本人がアメリカ人に対してサービスすることになっていると思う。本場の英語が体験できる仕掛けというのは、やはりアメリカ人のスタッフを揃えるしかないと思う。
- ・提言3について、このまま少しぼやかした形でもいいのかなと思う。大使館が多い渋谷区だとかあの辺のところは、オーナーは日本人だけれども、アメリカだとかイギリスだとか、オーストラリアの人たちが、本当に接客から何からしているというのは結構人気があるようで、テレビなどでも取り上げられて、お客さんなども随分来ているようなので、そういったイメージであるならばこの

提言のままでもいけるのかなというふうには思う。

- ・提言3について、海外等に行く前の練習の場というか、そこら辺が少し違和感があり、「英語の練習の場」か「英語交流の場として」とか、そういった形のほうがいいのではないかなと思う。
- ・洋の文化が体験できるというのが文章になるならば、タイトルもそれにすればいいと思う。

(平成30年12月14日)

- ・提言4「洋の文化が体験できるエリアとしての仕掛け」について、「現在、小学校では」とあるが、中学校も含めてやっているので、「市内公立学校では」という表現のほうがいいのかなと思う。
- ・提言4について、「小学校でも」にして、小学校でも英語教育が始まり、中学校では、英検獲得者がふえるなどとか、そんな表現を入れればよいのでは。
- ・提言4については、正副委員長で協議したいと思うが、各委員の意見をまとめると、「現在、市内公立学校では英語教育の充実に取り組んでいる」とし、その後はこの提言の文章のとおりする。

【多摩川流域（沿い）の魅力づくりについて】

(平成29年12月15日)

- ・多摩川サイクルカフェ
- ・片倉跡地サイクルベース（市内回遊のため片倉跡地を活用）
- ・自転車を預けられるようなサイクルステーション
- ・多摩川沿いでのアーティストの作品展示、販売、交流スペース
- ・蛍のいる熊川分水

(平成30年3月16日)

- ・桜まつりなど、多摩川沿いの近隣市でも多くのイベントをやっているのでも、自転車で移動すれば一日でいくつものイベントに行くことができるが、沿道に休憩できるスペースとしてサイクルカフェなどがあるとよいのでは。
- ・片倉跡地の再利用として、道の駅ができると良いのでは。
- ・福生市を起点として考えると、南公園までマウンテンバイクを積んで車で来て、そこから自転車に乗り換えて山間部に行く人もいる。ロードバイクについては、多摩川沿いがメインになると思うが、自転車を通した環境であればサイクルカフェは生き残れる可能性がある。
- ・拠点をめぐるコースだとかイベントをつなぐのであれば、福生市にサイクルベースやサイクルカフェができる可能性はある。

- ・多摩川流域から市内全域に魅力を広げるといふことであれば、市内のポイントとなる拠点（サイクルカフェや協力してくれる店舗）にサイクルラックが整備されるとよいのでは。
- ・中央公園や南公園の管理運営の民間活力導入は、現在、民間活力導入調査が実施されているが、公園の一部使用としてサイクルカフェを設置することも可能性がゼロではないということなので、そのような視点も入れていっては。
- ・片倉跡地については、活用されないままであるともったいない。二つの酒蔵を結ぶ起点となる場所にもなるだろうし、多摩川流域沿いの回遊の拠点にもなるので、よい活用方法があれば。
- ・片倉跡地の活用については、手つかずの熊川分水もあるので、環境に配慮したものができるとすればすごくいい。あまり開発されてしまうと非常に残念に思う方もいるので配慮は必要であると思う。
- ・拠点となるサイクルカフェやサイクルステーションを設置することで、ただ通過するのではなく、回遊の拠点や目的地としての福生市を創出する。
- ・福生市を起点とした回遊する仕掛け（拠点を巡るコース、サイクルラックなど）が必要。
- ・多摩川流域沿いの魅力づくりについては、サイクルカフェ（ステーション）と片倉跡地の活用を中心に協議していく。

(平成 30 年 6 月 15 日)

- ・多摩川は上流側から見れば、こちらが起点で、羽田のほうに下っていけるので、起点として多摩川沿いのスタートとしていろいろなPRだとか何かをすれば、こちらから出ていって帰ってくれる人が随分いるように感じるのです。
- ・多摩川沿いではなくて、ここが起点であれば、秋川方面で檜原までとか、青梅・奥多摩方面で奥多摩までとか、いろいろなルートが開発できる。一番いいのは福生だと思うので、いい拠点になるかなというふうには思う。
- ・視察先でのサイクリストの動きを聞きますと、多摩川沿いであると、なかなか市内のほうまでは来てくれないと思う。経済効果というのは一番大きな目的の一つなので、例えば、片倉跡地利用として、道の駅を設置するとの考え方は、当委員会の提言としてはいいのではないかと思うが。
- ・サイクリングステーションは駅の近くでもいいと思っている。
- ・米原市の駅前のサイクルステーションは、琵琶湖の出発点として、そういう観光資源として大きなバックグラウンドがあって、サイクリストの需要もあるが、福生で果たしてそこまでもあるのか。
- ・競技志向の高い人だけではなくて、福生市に拠点があることで、例えば16号から横田をめぐるって、それぞれで飲食をしてもらおう仕掛けもできる。また、健脚な方は奥多摩周遊とかを回ってもらおうとか、アスリート向けのイベントだと

か仕掛けを広域でつくっていけば、決してチャンスはゼロではない。広域で連携しながらそういう仕掛けをつくれればチャンスは埋まっている。

- ・片倉跡地については、道の駅については賛成だが、広さもあるので、道の駅プラス福生温泉みたいな何かが出来るとよい。

(平成 30 年 9 月 19 日)

- ・提言 5 「熊川分水を活かし、片倉跡地を活用する仕掛け」のところで、道の駅との記載があるが、道の駅に類似した形でまちの駅であるとか、空港が近ければ空の駅とか、いろいろな施設が全国的にできてきている感じもあるので、そういった道の駅に限定しなければ、「併設した施設」など、ぼやかしておいて、できる範囲の仕掛けをつくることはいいのかなというふうには思います。文章で言うならば、土地の所有者である東京都と一体となり、サイクルステーションや公園等を併設した施設などというふうにしておけば、できる範囲のことで仕掛けはできるのかなというふうに思う。
- ・提言 4 「西多摩エリアの回遊の拠点、目的地としての福生市を創出する仕掛け」のところで、上から 3 行目のところで、「現在の福生市のサイクリストを受け入れる体制が整っているとは言えず、多くのサイクリストは経済的な面で」とあるが、決して僕はそうは思わないのだけれども、単純に多くのサイクリストが通過してしまっている状況にあるというふうであればわかる。これはなくてもいいのかなというふうに思う。
- ・提言 4 については、多くのサイクリストは通過してしまっている状況にあると言ったほうが自然であると思う
- ・この特別委員会のもともとの趣旨というのは、交流人口を増やして、新たな観光資源を開発して、より交流人口を増やすことによって、いわゆる経済効果ももたらすというようなことが基本的なこの委員会のスタンスだったと思う。
- ・提言 4 については、「ただ通過するのではなく、経済効果を見込んだ回遊の拠点や目的地として」とし、最後のところで経済の面を入れたらいいのではないか。
- ・提言 4 の下から 2 行目、「お洒落なカフェ」というこの「お洒落な」という言葉が、ここに余りないほうがいいのかなと思う。
- ・提言 4 について、前からランナーの方も多く、サイクリストだけではないのだよというのは何回もお話しさせていただいているが、「サイクリスト等」としていただいたので、そこは酌んでいただいたのかなというふうに思う。
- ・提言 4 については、文章的に「お洒落な」は取って、「対象としたカフェやサイクルステーションを設置することで」というような文章のつながりにしたほうがよいかと思う。

(平成 30 年 12 月 14 日)

- ・提言 5 「西多摩エリアの回遊の拠点、目的地としての福生市を創出する仕掛け」について、「定年後からでも始めやすく」を「高齢者など誰でも始めやすく」とする。また、下段の「ただ通過するのではなく」は削除する。
- ・提言 5 について、「あきる野・奥多摩方面」を「秋川流域・奥多摩方面」とする。

【広域連携、動画配信及びWi-Fi 環境等について】

(平成 30 年 6 月 15 日)

- ・福生市は五十数カ国の方々がいて、お店をやっていたりすると、そこに来る方も、当然外国の方、いろいろな国の方がいると思うが、やはり、Wi-Fi の環境があると、観光の案内やガイドが出る仕掛けもできる。
- ・公衆で無料のWi-Fi が使える環境を用意しておくだけでも、観光や人が来るという面においてはチャンスロスがないのかなというふうに思う。
- ・理想を言えば、広域で福生市内全部を網羅するぐらいがいいが、できなければ、例えば宿橋通りとか市役所通りだとか16号だとか、メインとなるようなエリアが網羅できればいいのかなと思う。
- ・観光客にとっては、Wi-Fi 設備が整っているとかなり魅力になるのか。
- ・さまざまな観光市でも、Wi-Fi の環境というのは整ってきている。広域でできるか、また部分的にできるのか、そういったことで整えていくということは大事だと思っている。
- ・自治体がWi-Fi 設備を整えていく例というのはあるのか。
⇒立川市では駅前で行っている。
- ・広域連携については、今回も補正予算で出てきたとおり、行政も前向きに考えておられるようなので、このエリア全体で考えていただければいいのかなと思う。例えば、昭島とか羽村とかというのではなくて、もう少し広いところを出てくるところもあるでしょうから、そういった視点を置いてやっていただければいいのかなというふうに思っている。
- ・動画配信は、参考人意見でも、出し続けたほうが良いというふうな話があったのですけれども、どういうコンテンツが魅力的なのかなというのはよく調査していただいて出すことで、去年も監督シリーズが随分受けたようですので、そういった研究調査は引き続きいろいろやっていただくようなことはしていただいたほうが良いと思っている。
- ・広域連携については、進めていただいたほうが良いと思いますし、食材とかも西多摩全域でいろいろなものがありますので、連携して何か同じテーマでつくっていくというのは良いと思います。例えば、宿泊施設みたいなものがもし誘致できるなら、きょうは奥多摩、あしたは檜原みたいな、福生を拠点にして広域で連携していけるような、そういったプランができたらいいなというふうに思っている。

【情報発信及び環境整備について】

(平成 30 年 9 月 19 日)

- ・これはWi-Fiの話だったと思う。タイトルを「情報発信及びWi-Fi環境整備」にすればそれでまとまってしまうのかなと思う。例えば福生市に来て、福生市のWi-Fiを使うときには観光情報が一緒に出るとかという仕掛けはできると思う。頭のトップ画面が福生市の観光情報だとか、知りたい情報が出ているような画面をトップ画面に出すとかというのは、仕掛け用にはできると思う。Wi-Fi環境を整備することで、そういった観光資源の創出にもつながるのかなというふうに思う。
- ・Wi-Fi環境は入れたほうがいいと思う。インバウンドと言われる人の調査なども見ると、Wi-Fi環境は日本でもっと整備されていくような環境であると思うので、そういったことも含めて提言の中に入れていただいて、またそこから観光資源、またインバウンドの人たちを呼び込めるような仕掛けは、また別に考えなくてはいけないのですけれども、Wi-Fi環境の整備については、入れていただきたいなというふうには思う。
- ・情報を発信することもそうですし、受け取る側がそれを受け取れないとどうしようもないので、福生市に来ていただいて、少なくとも駅前だとか、できれば観光資源と言われるところに情報を得られるものがちゃんと整備されていれば、そういった方たちがそこに来て、いろいろな情報を得て、友人等にもまた伝えていくというようなことも考えられるのかなというところで、提言というところでは、Wi-Fi環境の整備については入れていただきたいというふうに思う。
- ・提言6「体験型の観光資源を掘り起こし、インターネット上で人を呼び込む仕掛け」について、中段から後段にかけての文書が少しわかりにくいという意見があったので、この件に関してはもう一度正副委員長のほうで検討する。

(平成 30 年 12 月 14 日)

- ・提言7「体験型観光資源の情報発信により、人を呼び込む仕掛け」について、3行目のところから、「全体を把握しづらい状況にあり、ほかにもまだ掘り起こされていないものも考えられる」と訂正し、その後は、4行目の「市内外から人を呼ぶために」と続ける。

6 提言（調査結果）

まちの魅力づくり対策特別委員会では、新たな観光資源の創出として、『和の文化について』、『洋の文化について』、『多摩川流域(沿い)の魅力づくりについて』、『情報発信及び環境整備について』を協議し、次のことについて推進することを提言する。

『和の文化について』に関する提言

【提言1】

観光資源を点で終わらせるのではなく、面的にとらえてつなげる仕掛け

古民家（旧ヤマジュウ田村家住宅）については、カフェや食堂などの休み処としての活用や、和の文化を体験できる場としての活用など、駅から酒蔵等をつなぐ回遊の拠点として有効活用することを提言する。

《和の文化の体験例》

- ・ 茶道体験
- ・ 華道体験
- ・ 繭づくり体験
- ・ 囲碁将棋体験

【提言2】

既存の観光資源の景観及び魅力を向上させる仕掛け

市内に2つある酒蔵の周辺を無電柱化することにより、既存の観光資源の景観及び魅力を向上させることを提言する。

『洋の文化について』に関する提言

【提言3】

国道16号線沿い（ベースサイドストリート）の魅力を強化する仕掛け

現在、福生市では、ベースサイドストリート沿いにあるアメリカンハウスを活用した観光案内、PR 動画、ガイドマップの作成、商店街が行う事業への事業費補助などを行っており、また、過去には街路樹をヤシの木にするなど、ベースサイドストリートの魅力強化に取り組んでいる。

今後も、洋の文化の中心であるベースサイドストリートに、多くの店舗が集まり、他市にない魅力的なエリアであり続けられるよう、このエリアに特化した事業を積極的に展開していくことを提言する。

【提言4】

洋の文化が体験できるエリアとしての仕掛け

現在、市内の公立小中学校では、英語教育の充実に取り組んでおり、幼児期から英会話教室に通っている家庭も増えている。また、ベースサイドストリートでは、米ドルで買い物ができる店舗も数多くあり、他市にない独特なエリアを既に形成している。

これらの状況を踏まえ、既存の飲食店、雑貨店などで、洋の文化(英語によるコミュニケーションや米ドルでの買い物など)が体験できることを売りにした仕掛けをしていくことを提言する。

『多摩川流域(沿い)の魅力づくりについて』に関する提言

【提言5】

西多摩エリアの回遊の拠点、目的地としての福生市を創出する仕掛け

現在、多摩川沿いや秋川流域・奥多摩方面では、日中サイクリングを楽しんでいるサイクリストが数多く存在する。しかし、現在の福生市ではサイクリストを受け入れる体制が整っているとは言えず、多くのサイクリストは通過してしまっている状況にある。

サイクリングは高齢者など誰でも始めやすく、健康的な趣味となり得るため、今後も利用者の増加が考えられる。

市では、平成30年3月に公園等の管理に係る民間活力導入調査の調査結果をまとめ、長期的には公園等の管理について PFI 導入に向けた調整を図るとあり、本委員会では、サイクリスト等を対象としたカフェやサイクルステーションを設置することで、経済効果を見込んだ回遊の拠点や目的地としての福生市を創出することを提言する。

【提言6】

熊川分水を活かし、片倉跡地を活用する仕掛け

片倉跡地については、現段階では、平成31年度に福生消防署の仮庁舎の建設が予定されており、平成35年度に仮庁舎の解体が予定されている。

片倉跡地内には熊川分水も流れており、玉川上水の散策者の目的地になり得る立地であると考えられることなどから、平成35年度の仮庁舎が解体される時期を見据えて、土地の所有者である東京都と一体となり、サイクルステーションや公園等を併設した道の駅など、熊川分水を活かした片倉跡地のより良い活用について検討を進めていくことを提言する。

『情報発信及び環境整備について』に関する提言

【提言 7】

体験型観光資源の情報発信により、人を呼び込む仕掛け

現在、市内にある酒蔵やハム工場の見学など、地域で可能な体験型の観光資源については、個々で情報発信するにとどまり、市内にどのような体験型の観光資源があるのか全体を把握しづらい状況にあり、他にもまだ掘り起こされていないものも考えられる。

今後は、市内外から多くの人を呼び込むため、「福生市内ではこのような体験ができる」といった体験型観光資源を取りまとめ、誰にでも分りやすく情報発信していくことを提言する。

【提言 8】

Wi-Fi 環境の整備により、人の流れを創り出す仕掛け

福生市では、平成 30 年 9 月 27 日に多摩ケーブルネットワーク株式会社と「地域広帯域移動無線アクセスシステムの整備及び公共サービスに関する協定」を締結し、災害時の避難所における通信手段の確保、イベント時における臨時の無料 Wi-Fi スポットの設置及び福生駅周辺等における無料 Wi-Fi スポットの整備など、災害時の情報伝達及び観光対策等の推進を図るとしている。

また、現在、東京都においても、外国人旅行者等が多く訪れる都立施設や都心部の観光案内標識などにおいて、「FREE Wi-Fi & TOKYO」として、無料で利用できる Wi-Fi サービスを実施しており、観光や街歩きをより快適に楽しめるよう、各エリアにおける利便性の向上を図っている。

今後、当市においても、協定内容に基づき、福生駅周辺等において無料の Wi-Fi スポットが整備される予定であるが、整備される際には、既存の観光資源へ人が流れるよう、積極的に観光対策を推進していくことを提言する。

まちの魅力づくり対策特別委員会委員名簿

役 職	氏 名
委 員 長	末 次 和 夫
副委員長	池 田 公 三
委 員	幡 垣 正 生
〃	武 藤 政 義
〃	清 水 義 朋
〃	青 木 健
〃	三 原 智 子
〃	田 村 昌 巳
〃	原 田 剛